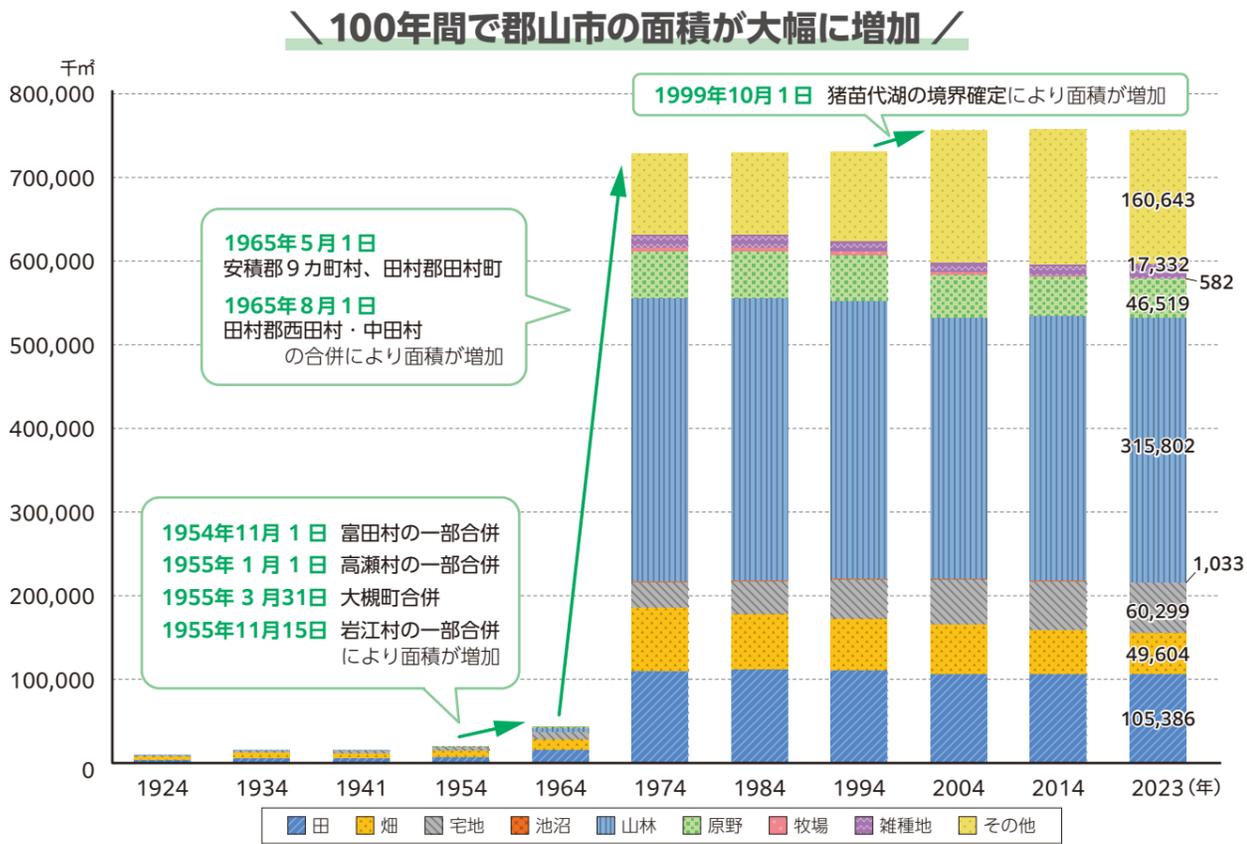


① 土地 — 地名の由来

安積町	大和政権が、当時の安積の地に「阿尺国造」を設置したことが地名の由来となっている。	田村町	坂上田村麻呂の伝説が数多く残されており、それが地名の由来に深く関わっている。
熱海町	鎌倉時代に安積郡の領主となった伊東氏が、故郷の伊豆(静岡県)をしのいで名付けたと言われている。	富田町	村人が、田の実りが豊かになるように願って名付けられたという説や昔路太子堂の縁起による説、諏訪神社の祭神による説などがある。
逢瀬町	1954年に河内村と多田野村が合併する際に、両村を流れる逢瀬川にちなんで名付けられた。	中田町	1956年に御館村と宮城村が合併する際、村名を募集。その結果、最も多かった中田村が由来となっている。
大槻町	もと「大豆生」と書き、大豆生産に適した土地に由来すると、槻の大樹があったからとも言われている。	西田町	1956年の高野村と逢隈村の合併の際に、住民の公募により西田村に決定したことが由来となっている。
片平町	戦のとき着用した「帷子」が変化したとも、水の便がよく、水害がなく、近くに平野が望める傾斜地がある場所を全国的に「片平」ということ由来とも言われる。	日和田町	由来ははっきりしていないが、昔は「部谷田」や「部和田」と言われ、それが変化し現在の地名になったと言われている。
喜久田町	由来ははっきりしていないが、1876年に喜久田町が誕生する際は、作物が実らない荒地だったため「早く喜びがもたらせる土地にしたい」という願いから名付けられたと言われている。	富久山町	一説には、1876年に久保田・福原・八山田の3カ村が合併する際に、各村名から一字ずつ取り、「富久山」としたものを、現在の表記に改めたと言われている。
湖南町	猪苗代湖の南岸にある村であることから、1955年に「湖南村」と名付けられた。	三穂田町	1953年に三和村、穂積村、安積町の川田地区が合併する際、各地名から一字ずつ取り、地名とした。

資料：□承文芸刊行物「郡山の地名」

① 土地 — 地目別土地面積の推移

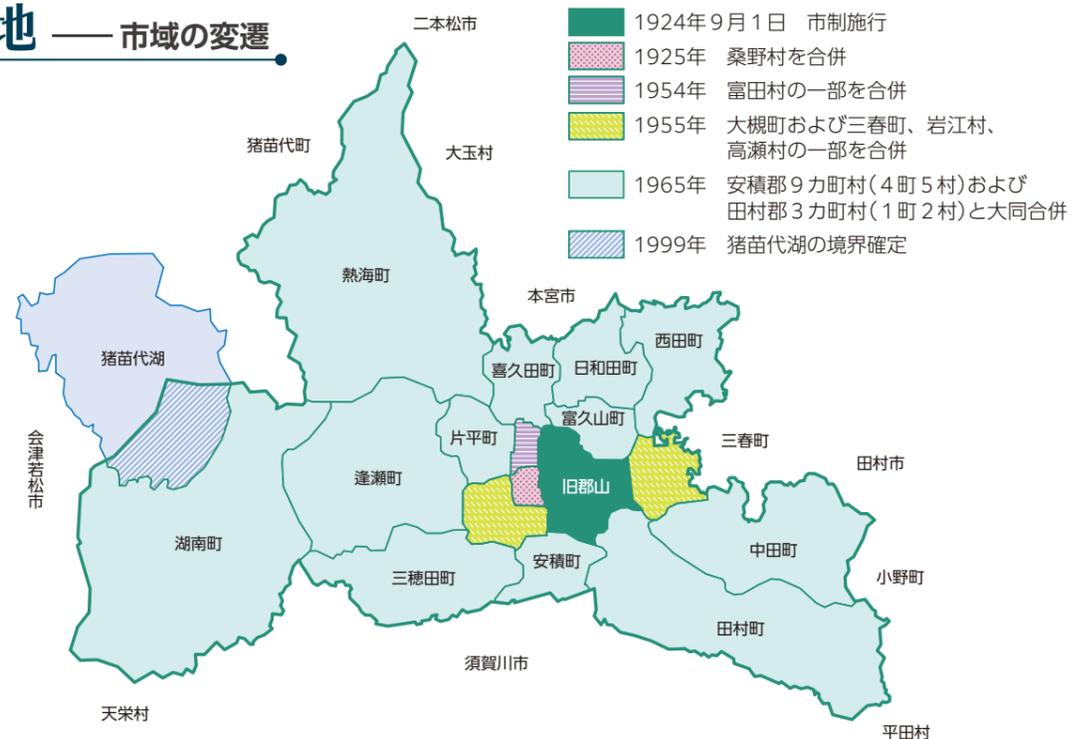


※出典ごとの集計方法などが異なるため、単純比較不可。

資料：福島県統計書 郡山市統計書

データでみる 郡山市の100年と今

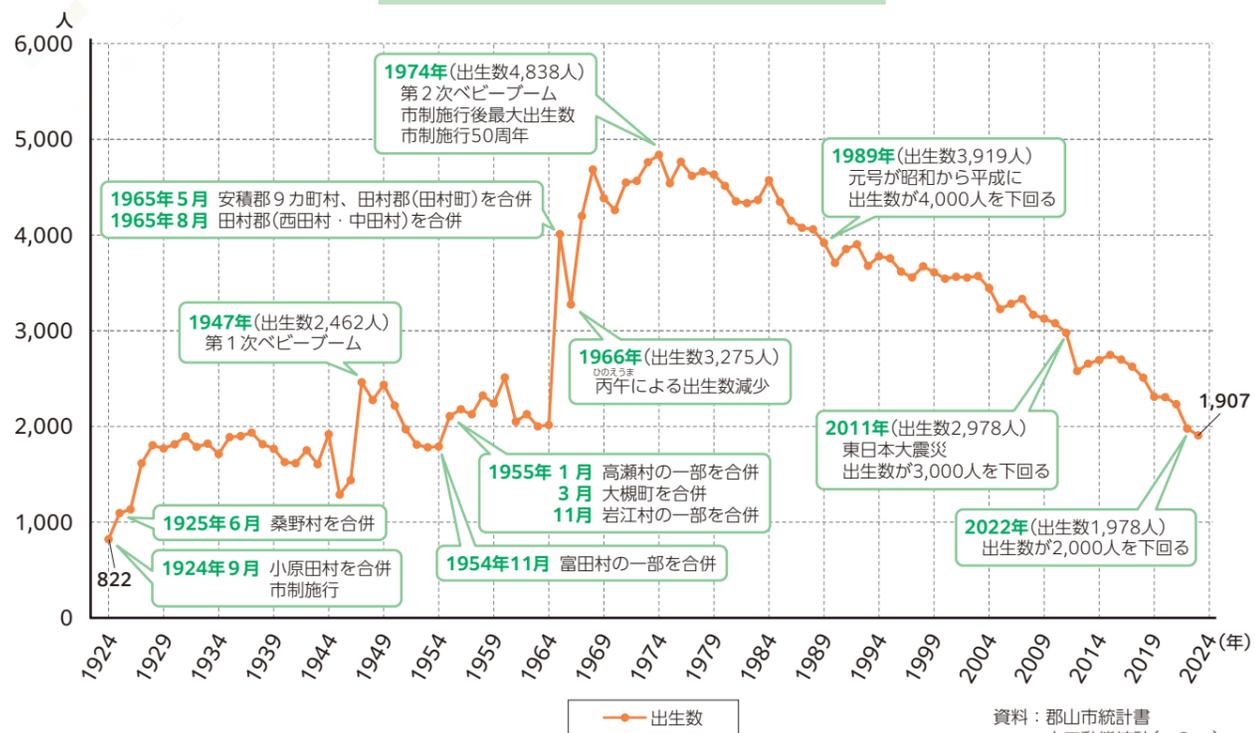
① 土地 — 市域の変遷



年月日	編入・合併した地域	編入・合併した面積(km ²)	編入・合併後の面積(km ²)	面積指数(市制施行時=100)
1924.9.1	郡山市誕生(小原田村を編入合併、市制施行)		13.18	100
1925.6.1	桑野村を編入合併	6.67	19.85	151
1954.11.1	富田村(喜久田村に編入する区域を除く。)を編入合併	6.43	26.28	199
1955.1.1	高瀬村と境界変更(大平、下行合の一部を編入)	1.19	27.47	208
1955.3.31	大槻町を編入合併	16.23	43.70	332
1955.11.1	三春町と境界変更(旧中妻村の荒井、蒲倉を編入)	1.75	45.45	345
1955.11.1	三穂田村(川田の一部)と境界変更	—	45.45	345
1955.11.15	岩江村の一部(白岩、下白岩、阿久津、安原、横川、下舞木、上舞木の一部)を編入合併	10.29	55.74	423
1956.10.10	三春町(下舞木の一部)と境界変更	▲1.50	54.24	412
1960.4.1	三春町(下舞木の一部・上舞木の一部)と境界変更	▲0.09	54.15	411
1960.10.1	1960年10月1日の国勢調査結果に用いられた、建設省国土地理院から公表された「昭和35年全国都道府県市区町村別面積調」による	2.25	56.40	428
1965.5.1	安積郡9カ町村(安積町、三穂田村、逢瀬村、片平町、喜久田村、日和田町、富久山町、湖南村、熱海町)、田村郡田村町と新設合併	590.70	647.10	4,910
1965.8.1	田村郡西田村、中田村を編入合併	82.33	729.43	5,534
1970.11.1	須賀川市(仁井田の一部)と境界変更	▲0.01	729.42	5,534
1974.9.1	須賀川市(仁井田の一部)と境界変更	—	729.42	5,534
1974.9.1	本宮町(関下の一部、岩根の一部)と境界変更	—	729.42	5,534
1974.9.1	白沢村(松沢の一部)と境界変更	—	729.42	5,534
1979.8.1	本宮町(岩根の一部)と境界変更	—	729.42	5,534
1989.10.16	岩瀬村(守屋の一部、今泉の一部)と境界変更	—	729.42	5,534
1989.11.10	国土地理院面積測定による変更	1.63	731.05	5,547
1999.10.1	猪苗代湖の境界確定による変更	26.01	757.06	5,744
2014.10.1	国土地理院面積測定による変更	0.14	757.20	5,745

③ 人口 — 出生数の推移

100年前の出生数は822人

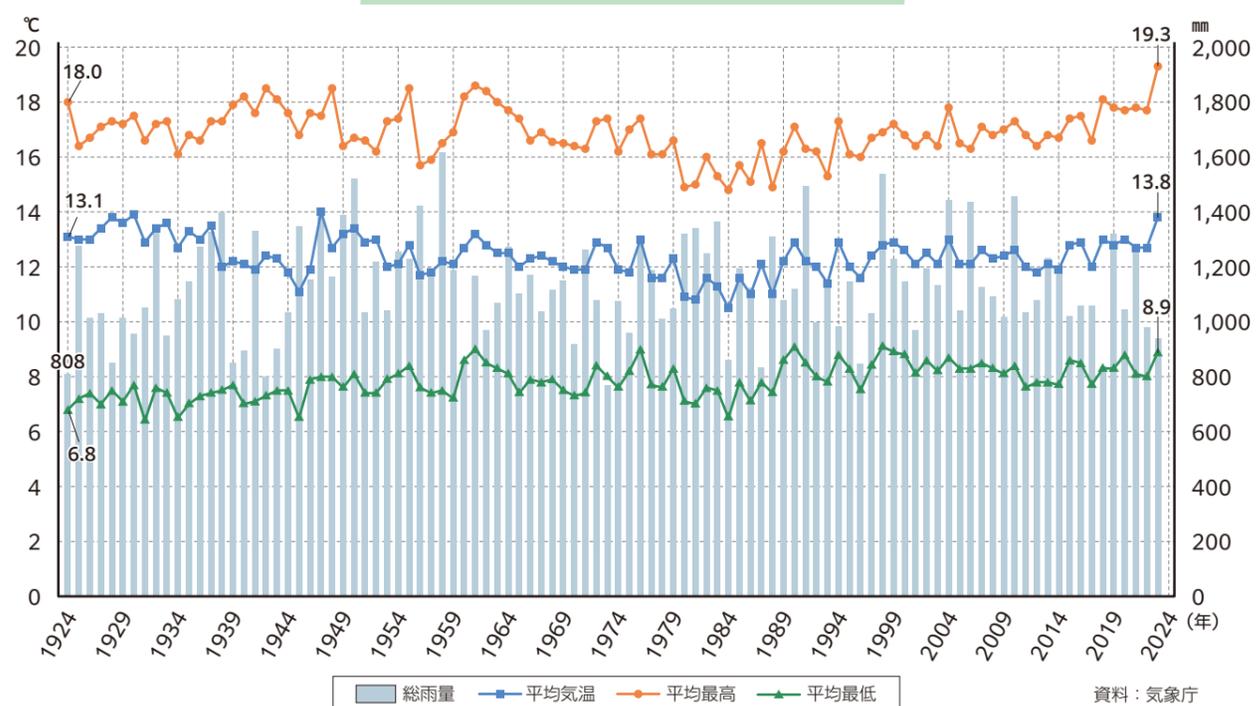


※出典ごとの集計方法などが異なるため、単純比較不可。

資料：郡山市統計書
人口動態統計(e-Stat)
郡山市統計一斑

② 気象 — 気温・総雨量の推移

100年前の平均気温は13.1℃



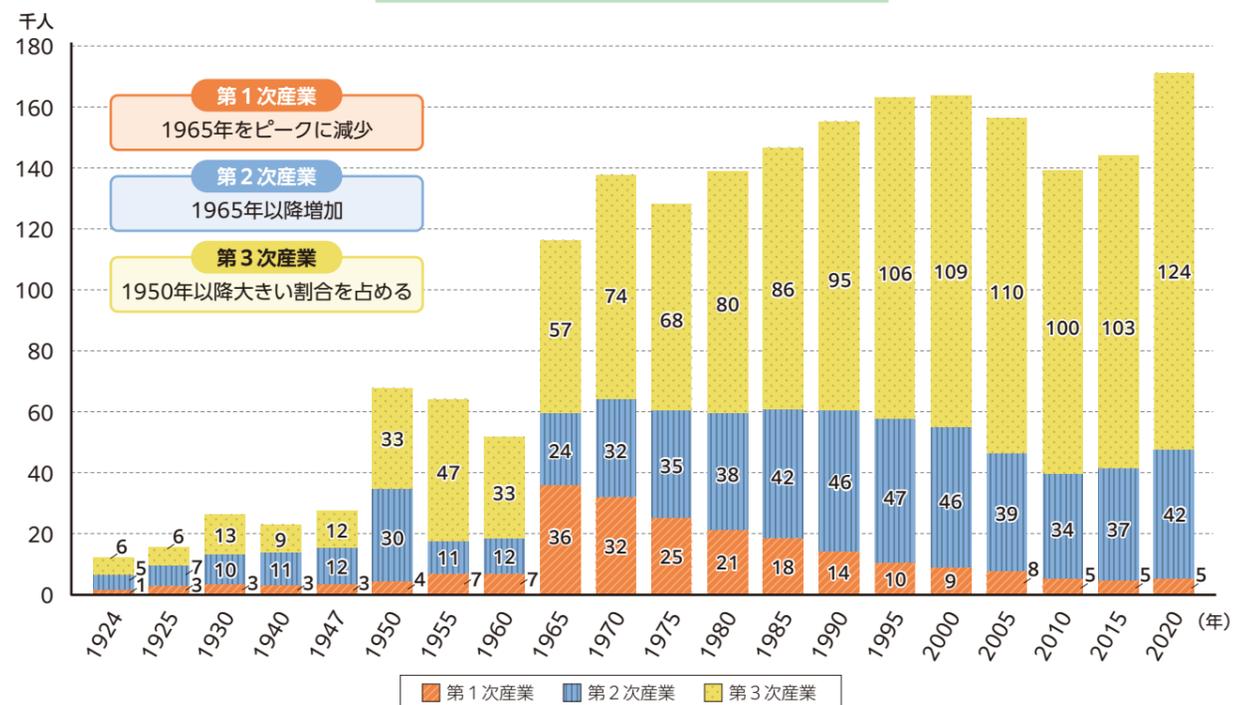
※出典ごとの観測方法などが異なるため、単純比較不可。

※1938-1945年、1948年、1953-1955年、1960-1965年については、福島気象観測台の記録を採用。

資料：気象庁
福島県統計書
郡山市統計書
郡山市史

③ 人口 — 産業別就業者数の推移

100年間で産業構造が変化

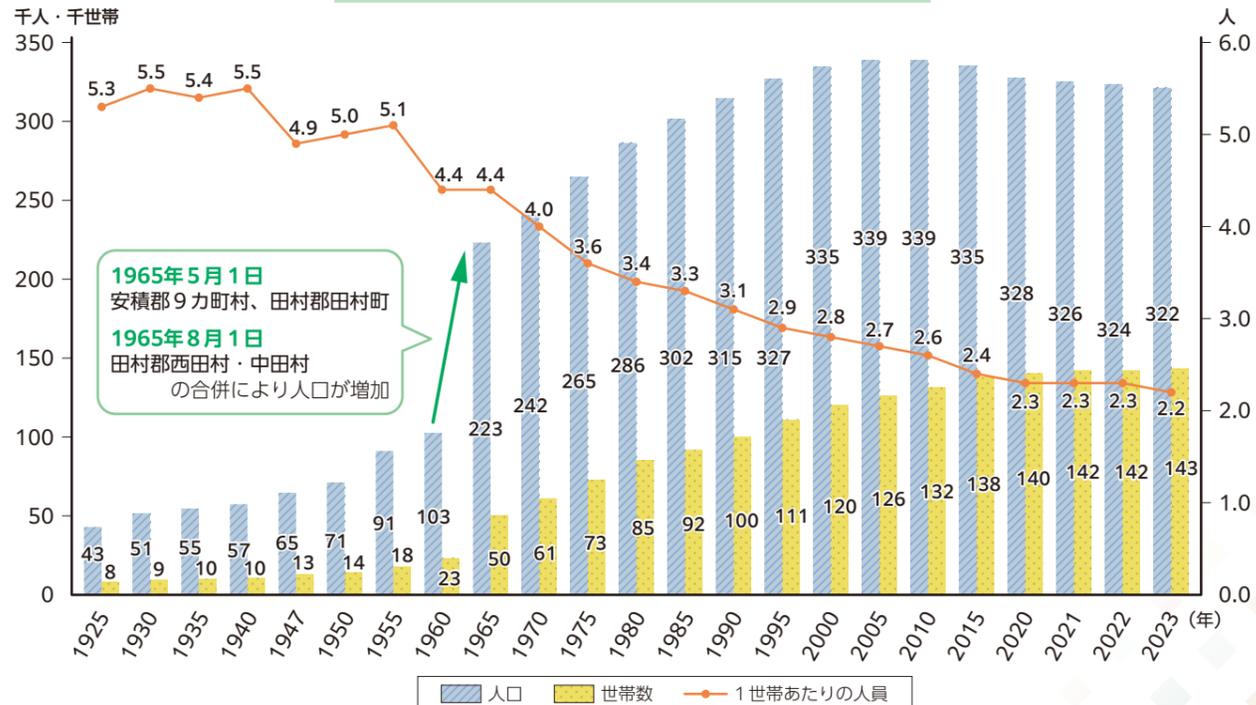


※出典ごとの集計方法などが異なるため、単純比較不可。
※1935年については、データ不明。

資料：国勢調査
福島県統計書
郡山市統計書

③ 人口 — 人口・世帯数の推移

100年間で人口が約7.5倍に増加

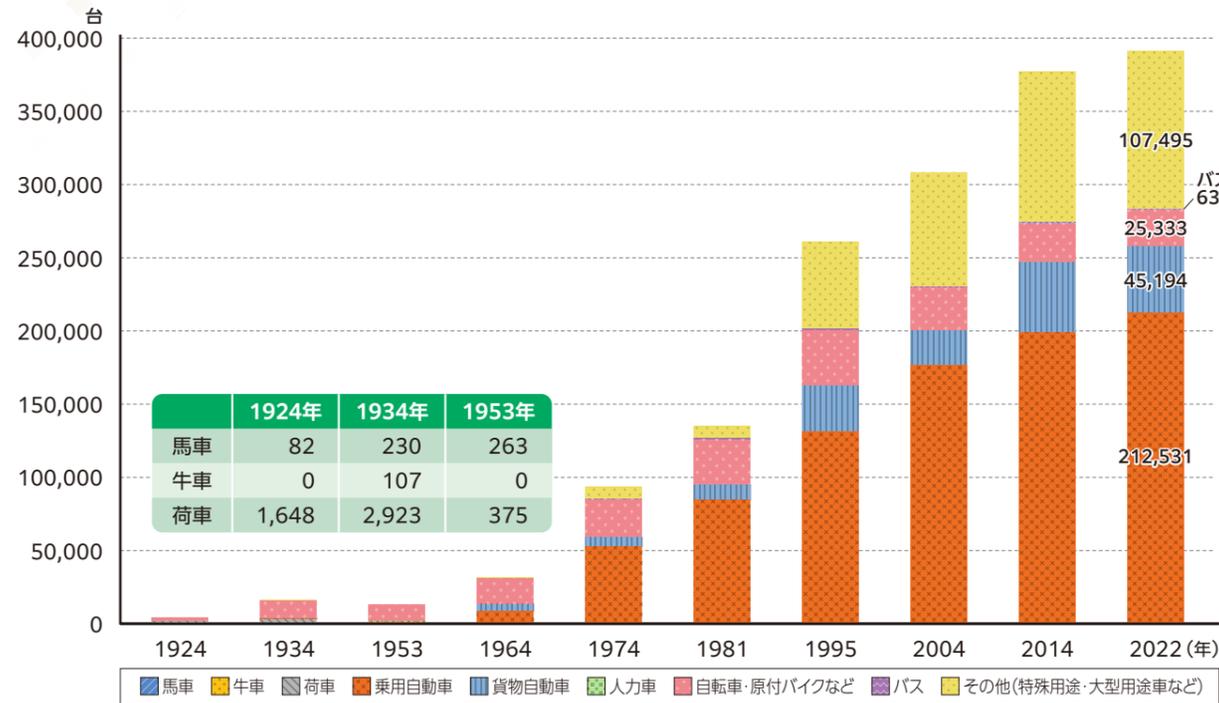


※1945年国勢調査は、戦争の影響で中止となり、1947年に臨時的国勢調査を実施。
※2020年以降は、福島県推計人口より算出。

資料：国勢調査
福島県推計人口

⑤ 運輸・通信 — 車両などの保有台数の推移

100年前は馬車が利用されていた

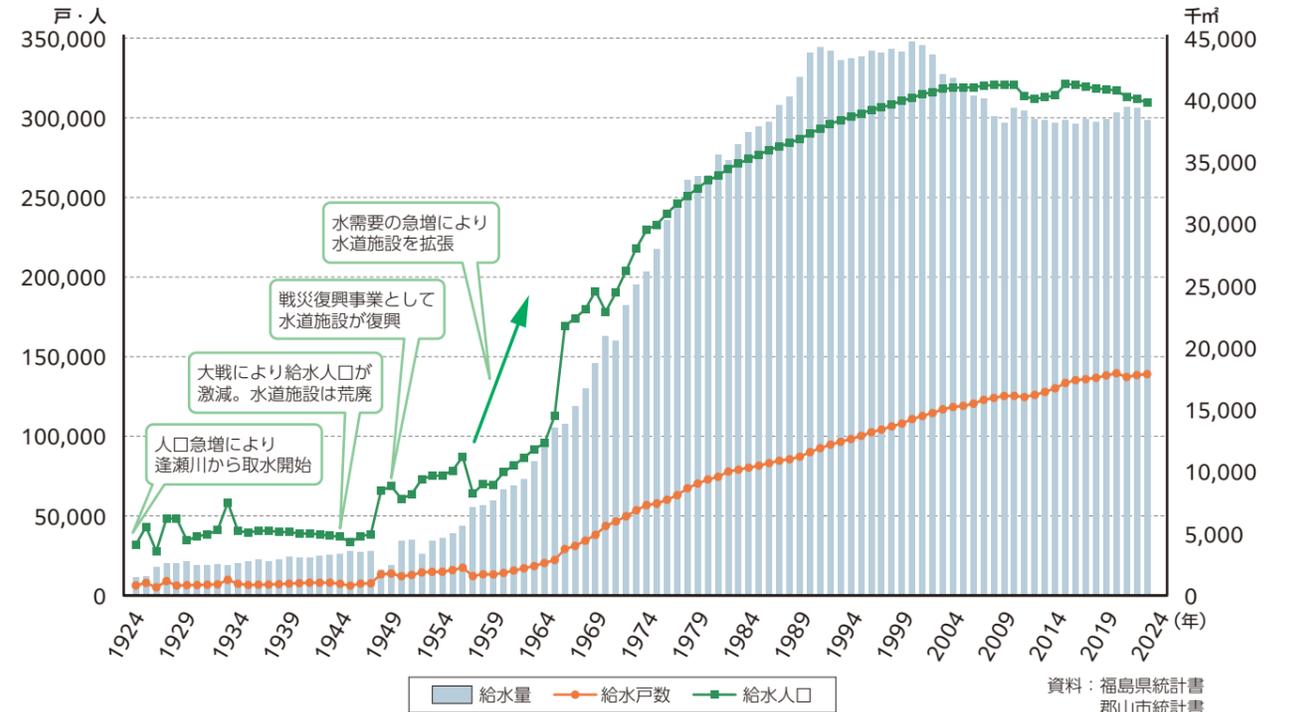


※軽自動車は乗用自動車に区分。
※出典ごとの集計方法などが異なるため、単純比較不可。

資料：福島県統計書
郡山市統計書

④ 水道 — 上水道の給水人口などの推移

100年間で給水人口が約10倍、給水戸数が約22倍に増加

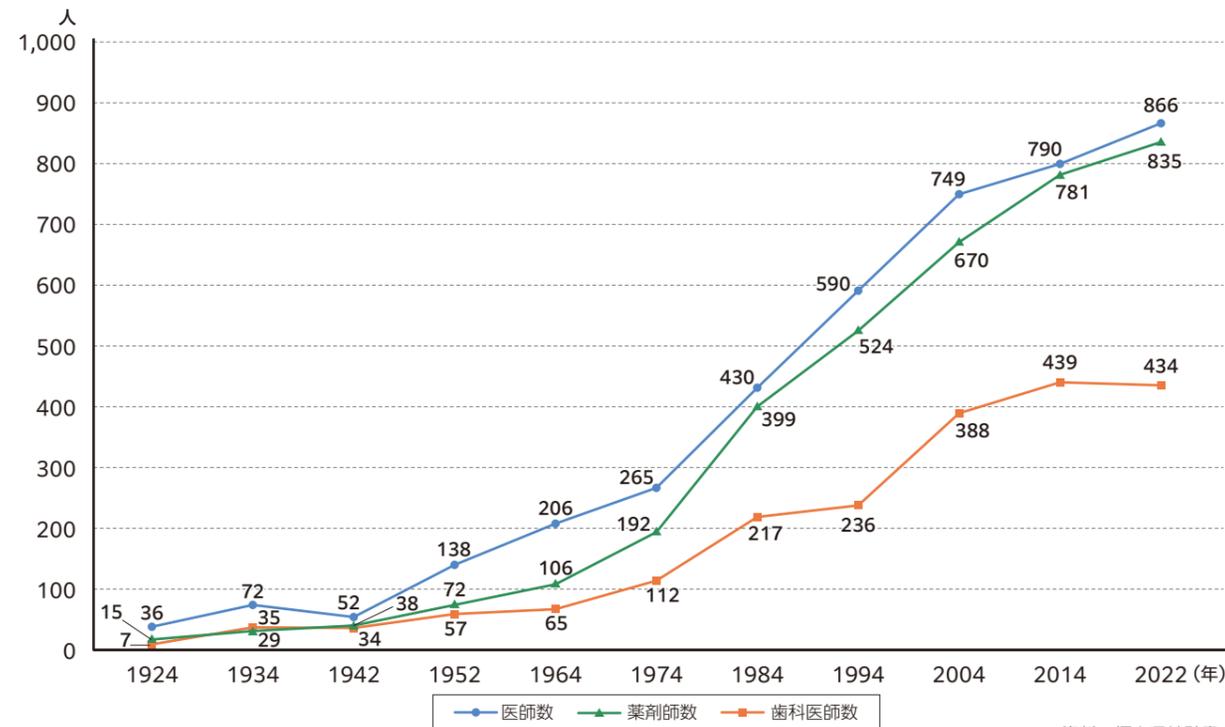


※出典ごとの集計方法などが異なるため、単純比較不可。

資料：福島県統計書
郡山市統計書
郡山市史
郡山市水道事業年報

⑥ 医療 — 医療従事者数の推移

100年間で医師数は約24倍、歯科医師数は約62倍、薬剤師数は約56倍に増加

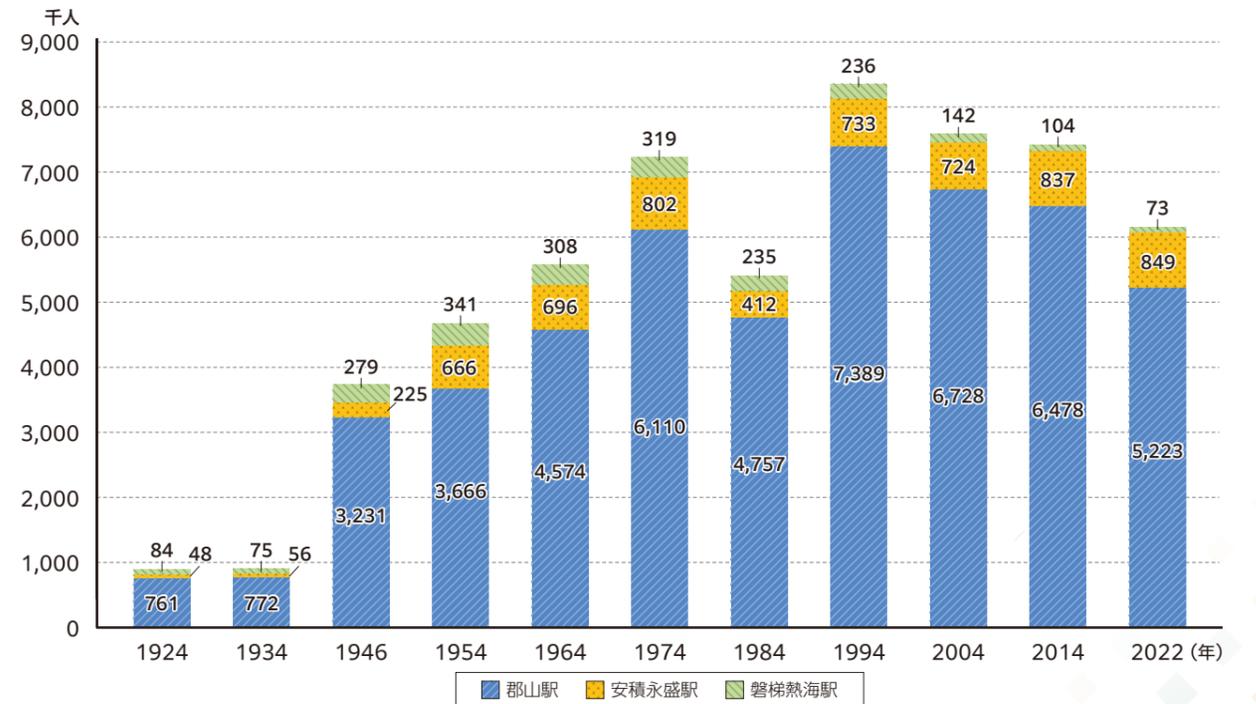


※出典ごとの集計方法などが異なるため、単純比較不可。

資料：福島県統計書
郡山市統計書

⑤ 運輸・通信 — JR各駅乗車人員の推移

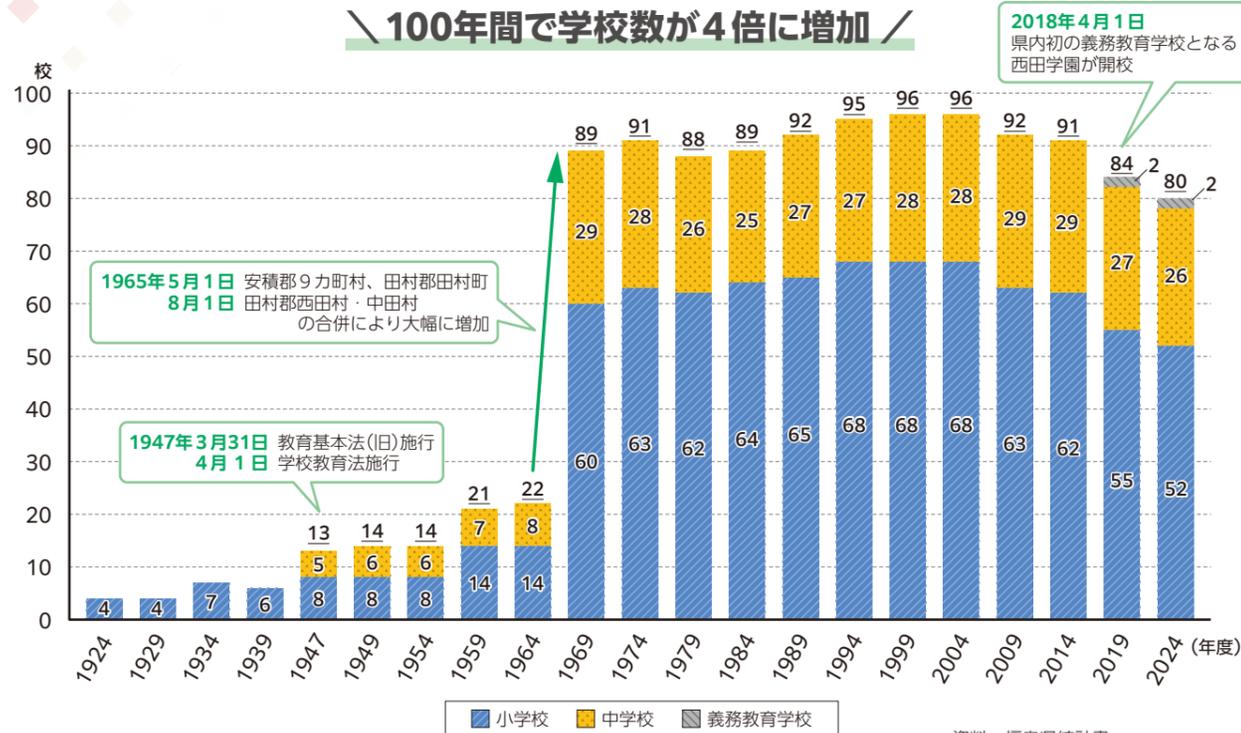
100年前は約90万人が乗車



※出典ごとの集計方法などが異なるため、単純比較不可。
※郡山駅については在来線のみ集計。

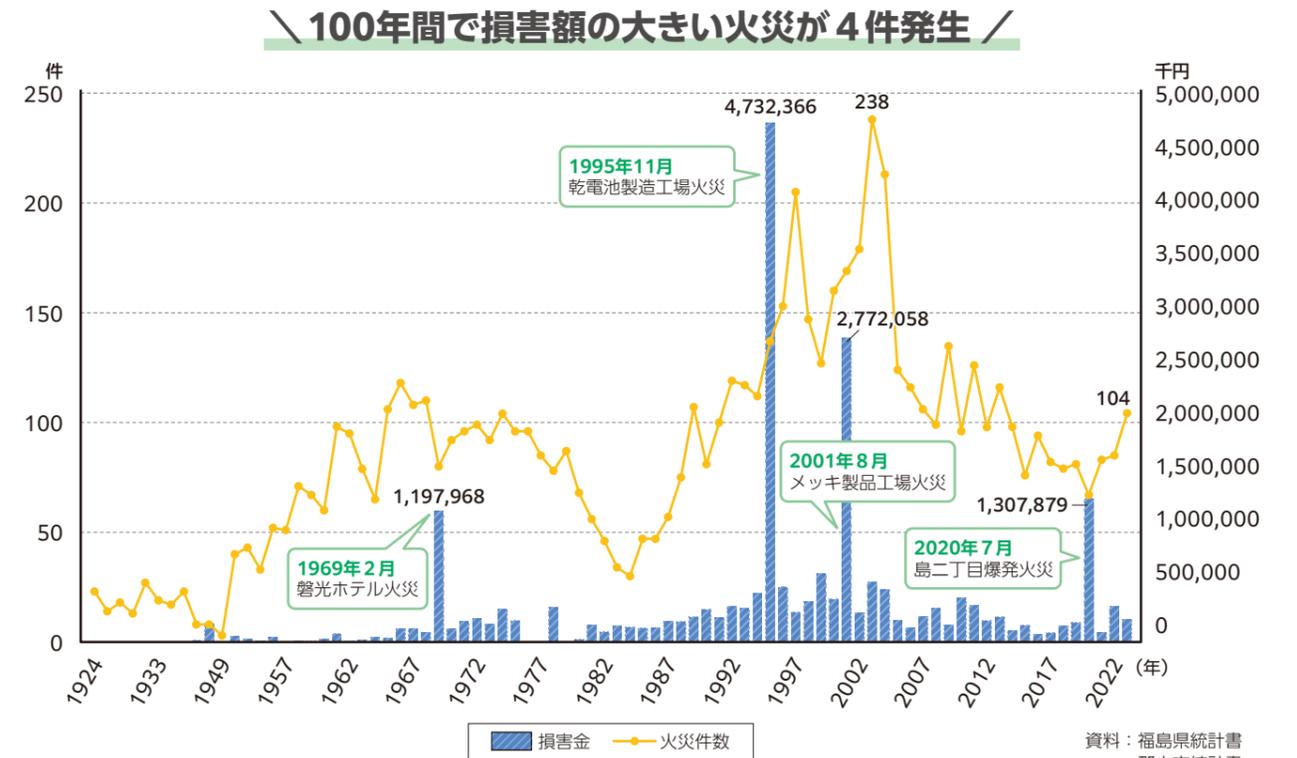
資料：福島県統計書
郡山市統計書

⑨ 教育 — 学校数の推移



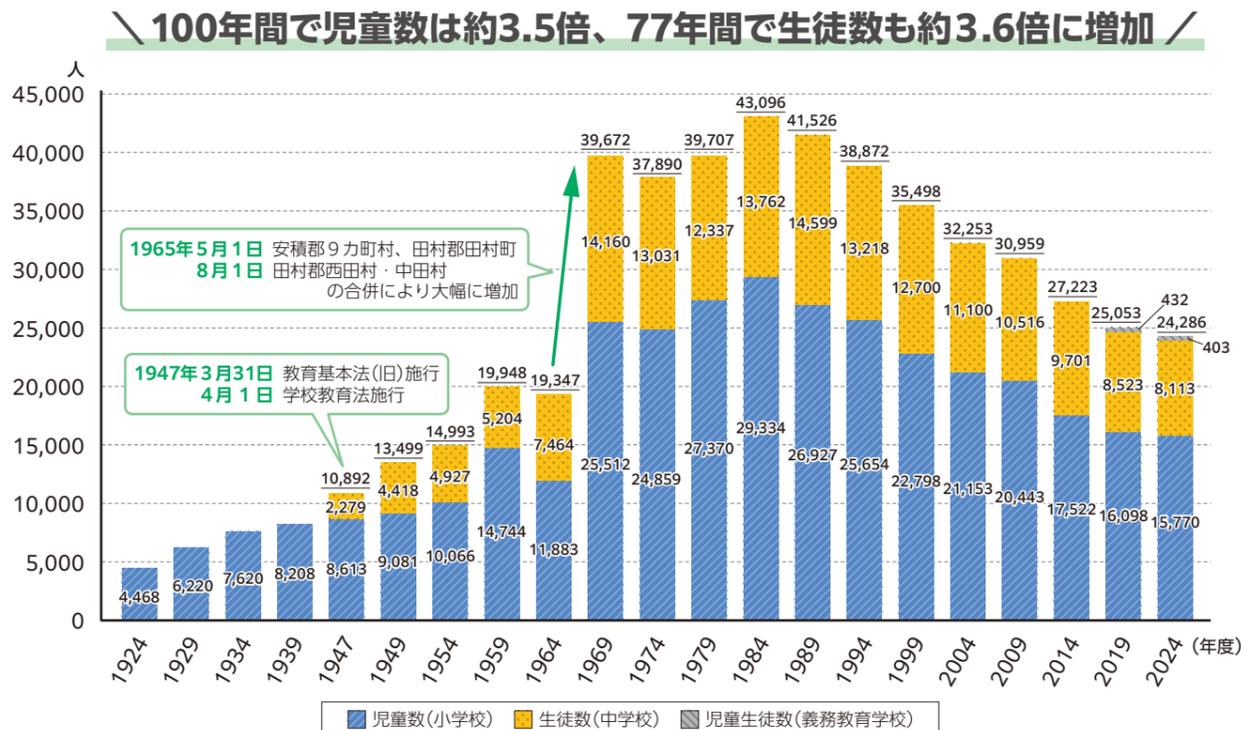
※出典ごとの集計方法などが異なるため、単純比較不可。
※1944年度についてはデータ不明。
※1924-1939年度については尋常小学校数を計上。

⑦ 災害・事故 — 火災件数・損害額の推移



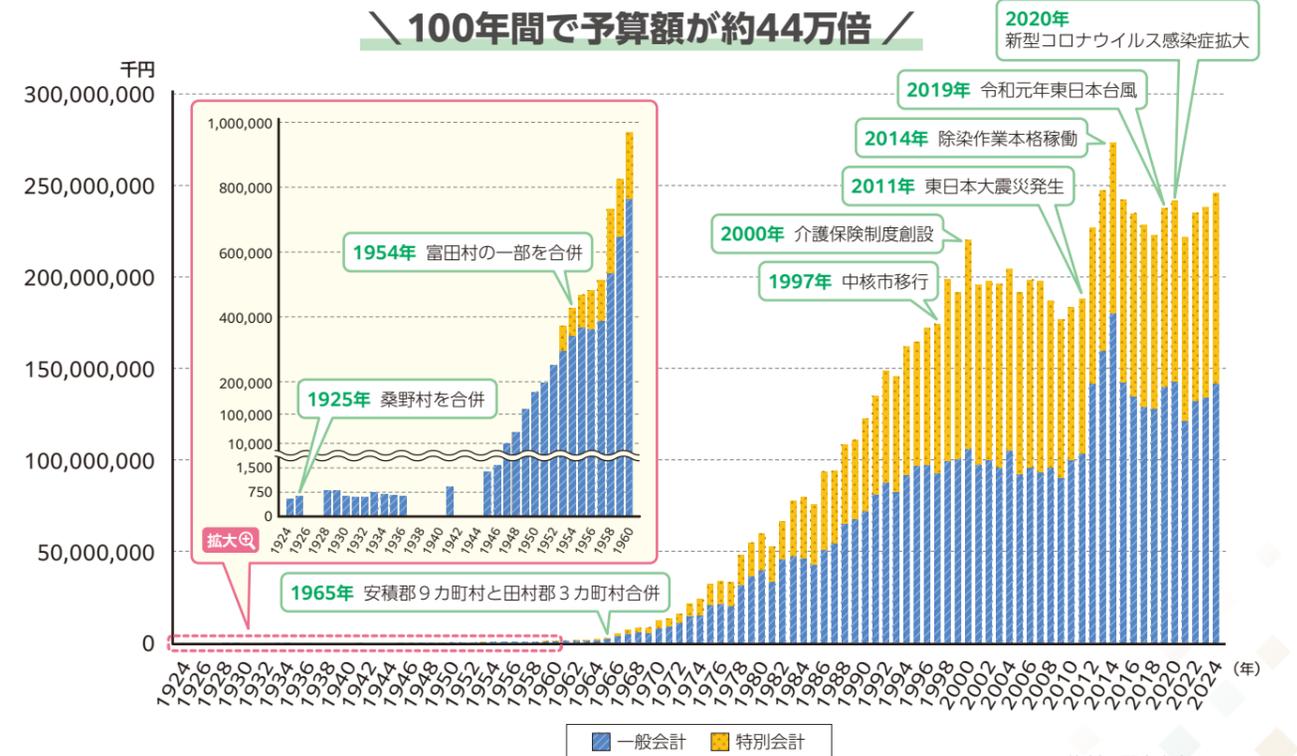
※出典ごとの集計方法などが異なるため、単純比較不可。
※1926-1927年、1931-1932年、1934-1935年、1938-1946年、1950-1952年については、データ不明。

⑨ 教育 — 児童・生徒数の推移



※出典ごとの集計方法などが異なるため、単純比較不可。
※1944年度についてはデータ不明。
※1924-1939年度については尋常小学校児童数を計上。

⑧ 行財政 — 当初予算の推移



※出典ごとの集計方法などが異なるため、単純比較不可。
※1926年、1927年、1937年-1940年、1942-1944年についてはデータ不明。